同窓生による講演会を初開催

H.I.U.Festa2022【復活ＨＩＵ祭り！～コロナを吹き飛ばした先に見えるモノ～】（大学祭）が、10月29日と30日の２日間で開催された。今年度は、３年ぶりに対面での開催となり、一般公開もされた。

校友会では、初めて卒業生による講演会を企画し、講演には、埼玉県警察吉川警察署に勤務する横須賀利光警部を迎え、これまでの体験談を聞き、助言をもらうアット・ホームな講演会となった。横須賀さんからは、平成国際大学までの入学経緯から、警察官の仕事をしながら大学を卒業できたのは、家族の協力が必要不可欠であったと話された。また、現職を定年延長して、ゴールを伸ばす道も考えているとのこと。

当日には同窓生や在学生、教職員などが参加し、後輩にあたる学生たちへ「大学に入った初心を貫いていき、これからも挑戦を厭わないでほしい」と言葉を送った。

今後の活躍が楽しみです

校友会会長　高井　勝弘

校友会では、今年度も成績優秀者表彰式を執り行いました。

同窓生からは、昨年のボクシングの宇津木秀さんに続き、日本バンタム級タイトルマッチにて、堤誠也さんが勝利を収め、第75代日本バンタム級王者になる輝かしい功績をあげられました。在学生からは、19組が表彰されました。硬式野球や女子硬式野球部、陸上部（駅伝）、剣道部などからも素晴らしい成績を上げられ、ウエイトリフティング部が1部へ昇格、サッカー部も3部へ昇格を果たし、来年度から新しいリーグでの活躍が期待されます。そのサッカー部からは、安西駿さんが福島ユナイテッドFCへ2023シーズンからの加入内定をされたとうれしい報告もあり、今後も同窓生や在校生のさらなるご活躍を期待していきたいと思います。

校友会では、一人でも多くの方が活躍できるように支援をしたいと考えておりますので、今後とも皆様からのご協力をお願い申し上げるとともに、掲載を希望される方や活躍されている同窓生をご存じの方は、同窓会事務局までお知らせいただきたいと思います。

ワールドカップ

平成国際大学　学長　柏木　俊彦

今年は、箱根駅伝の学生連合チームとして出場した本学の陸上競技部の佐藤碧君の走っている姿を見ることで1年を始めることができたことはうれしいことでした。駅伝は走者の走っている姿を見ているだけで感動を与えてくれますが、特に、私にとっては本学の学生の走る姿をテレビで見ることができたのは特別の感動がありました。

昨年はサッカーのワールドカップもありました。日本のチームの試合の度にテレビ観戦で眠い朝を迎えましたが、よく戦ったと思います。私は、日本が初めてW杯に出場しチケット騒動があった1998年のフランス大会に娘とともにナントでのクロアチア戦の試合の観戦に出かけました。日本は点を取れずにクロアチアに負けはしましたが、日本が世界を相手に試合できること自体に十分感激していました。ナントは「ナントの勅令」で有名な地ですが生牡蠣と辛口の白ワインであるミュスカデの産地としても有名です。試合後、街に出てミュスカデを大いに飲みながら生牡蠣を食べたことを想い出します。

コロナが収束して安心して過ごせる日々を心待ちにする令和5年の春です。

「日常」と「非日常」と

校友会顧問
副学長　浅野　和生

中国の武漢で「原因不明の肺炎」が蔓延との情報が発信されたのが2019年12月31日、その原因が「新型コロナウイルス」と特定されたのは2020年1月9日だった。今や「コロナ対策」も3年余り、「日常」と「非日常」が逆転した。コロナ禍という「非日常」への対処だった手指の消毒、マスク着用の徹底はすっかり「日常」と化し、今度はどうやってマスクなし生活に戻るかが課題となった。これは多少面倒でも、お金と手間がかかることでも、危機感があればできるもので、3年もたてばそれが「日常」になるという人間性の証左である。歴史上はじめて「人生100年時代」を迎えた今、我々は就職後もリカレント学習を怠ると時代に取り残されるという新たな危機に直面している。多少面倒でも、お金と手間がかかっても、「学びのある生活」が必要なのだ。それも3年もたてば「日常」になるはずだから、今日からでも取り組めばよい。皆さん、大学と大学院の門は広く開かれていますから、どうぞお出で下さい。